

地域・社会、環境への貢献

太陽生命厚生財団

太陽生命厚生財団は、1984年5月に、当社の創業90周年を記念して「太陽生命ひまわり厚生財団」として設立されました。2009年12月には公益財団法人に移行し、「公益財団法人太陽生命厚生財団」に名称変更しています。

当財団は、創設以来「高齢者の福祉」および「障がい者の福祉」に関する事業・調査研究への助成を行い、設立目的である「わが国の社会福祉の向上に寄与する」ための事業を続けています。設立以来の助成金累計は2,493件、13億7,362万円となっています。

太陽生命グッドウィル・サークル友の会

2005年12月に、役職員による社会貢献活動を支援することを目的として、「太陽生命グッドウィル・サークル友の会」を設立しました。毎月の報酬・給与の手取り金額の100円未満の端数を会費として、森林保全活動や各職場における地域密着型の社会貢献活動などを支援しています。

太陽生命の^{もり}森林

東西2か所に「太陽生命の^{もり}森林」を設置し、社員ボランティアが自らの手で森林保全活動を展開しています。

太陽生命の^{もり}森林

(栃木県那須塩原市 2006年3月設置)

カラマツの人工林4.8ヘクタールにおいて、『いのち輝く明るい森林づくり』を活動テーマに掲げ、間伐、林道整備、憩いの広場整備などを実施しています。

社員ボランティアによる整備活動によって、手入れが行き届かず暗かったカラマツの人工林が太陽の光が射し込む明るい森林へと生まれ変わり、親しみやすい森林づくりが進んでいます。

2012年からは、公益財団法人日本ダウン症協会に所属されているご家族をお招きして「森林教室」を実施しています。



太陽生命くつきの^{もり}森林

(滋賀県高島市 2007年11月設置)

旧里山林12.7ヘクタールにおいて、『恵み豊かな里山林づくり』を活動テーマに掲げ、アカマツ林の保全、広葉樹林の育成やビオトープ整備などを実施しています。むかし里山として人と密接なかかわりを持っていた森林の原風景を維持しながら、新しい形で人とかがわる森林づくりを進めています。

2011年からは、高島市立朽木東小学校と協働で「どんぐりプロジェクト」を実施しています。3年生がどんぐりをポットに植え付け、3年間育てた苗木を卒業時に森林に植える活動であり、ナラ枯れやシカの食害の影響を受けている広葉樹の森林の再生に取り組んでいます。

上記取り組みが評価され、2023年10月に30by30「自然共生サイト」に認定されました。



全国一斉クリーンキャンペーン

1982年より本社周辺の清掃活動を行っており、2004年からは「全国一斉クリーンキャンペーン」として、全国の支社周辺地域でも実施しています。

2023年度は全国各地で約8,500名が参加し、日頃お世話になっている地域の皆様に感謝の気持ちを込めて、清掃活動に取り組んでいます。



開発途上国への支援の実施

全国の支社・本社で古本、書き損じハガキ、靴、楽器、ランドセル等を収集し、活動実施団体への寄贈を通じて開発途上国の教育・医療支援等に役立てています。

2023年度に当社初の取組みとなった靴の収集では、開発途上国の方々へ約3,700足を寄贈することができました。



写真提供：©NPO法人ワールドギフト

ライトダウンの実施

2023年度は7月14日と12月15日の2回、地球温暖化防止対策の一環として、「ライトダウン」をT&D保険グループ合同で実施しました。CO₂削減のみならず、スマートワーク実現に向けた取組みの一環として、18時までに業務を終了し、消灯のうえ全員が退社できるよう取り組みました。

子供地球基金への募金

子供地球基金とは、世界の恵まれない子どもたちが社会の一員として自分の能力を社会に還元することができるよう、想像力豊かな子どもたちを育てることを目的としたボランティア団体です。

当社はその趣旨に賛同し、子供地球基金への寄付活動を通して、病気や戦争、災害などで心に傷を負った世界中の子どもたちを支援しています。



福島・石巻応援マルシェの開催

東日本大震災の発生以降、当社支社所在地域の中で最も被害の大きかった宮城県石巻市に対して、特産品の社員向け幹旋や物産展などの支援活動を継続しています。2023年度は、応援地域を拡大し、石巻市に加えて福島物産展も同時開催しました。当日は、マルシェを訪れた方々に人気の特産品をご案内し、多くの商品が売り切れるなど大盛況となりました。また、復興を全力で進めている現地の状況を知っていただくため、同会場にて東日本大震災に関するパネル展示を行いました。

